

海上挺進第四戰隊 (三島島子)
戰隊附 陸軍中尉 松岡三郎

編成裝備關係

1. 自己部隊編成

戰隊長一 中隊長三 戰隊本部附三 中隊附八七

予備群八

兵器彈藥

甲工型內道攻擊艇 一〇〇隻 三式三〇駐爆雷二四〇個

二六式拳銃一〇四挺 九五式軍刀八九挺

百式機關短銃五挺

53

2. 職員表

戰隊長	少佐	金子昌功	附隊長	中尉	松岡三郎
一等隊	大尉	高橋澄夫 (殘留)	一等隊	少尉	大田黑一 (殘留)
二等隊	中尉	赤星 悟 (編入)	二等隊	少尉	原田新 (本地還道)
三等隊	中尉	瀨本正明	三等隊	少尉	小畑博道 (谷津)
附隊	中尉	瀨本正明	附隊	少尉	大塚 健 (谷津)

昭和三十二年一月二日機帆船一八隻二戸沖繩慶良間島ヲ出
 港途中敵機動部隊ニ遭遇シ六隻沈没四隻台湾ニ漂着
 残り同船ニ塔載セシ兵器彈藥ハ全部海没並ニ台湾ニ
 漂着

人員兵器等ノ増減関係
 後航空機用百社爆彈百個受領ス
 今台湾人朝鮮人現地住民使役ノ関係

部隊履歴

昭和三十二年九月五日 於宇崩 編成 完結
 今 今 二月九日 宇崩港 出港
 今 今 二月三日 沖繩 慶良間島 上陸
 今 二十一年一月九日 機帆船一六隻ニ依リ慶良間
 島出港途中敵機動部隊ニ
 遭遇六隻沈没四隻台湾ニ

今 公 二月二十日前後 宮古島上陸

自昭和二十年三月二十五日開 天号作戰參加

至 公 六月二十日 戰闘行動停止

昭和二十年八月十五日 復員 夕

全 十二月十日 宮古島出發 復員 夕

全 十二月十七日 浦賀上陸

全 十二月二十日 復員 完結

三、指揮 隸屬關係其變遷、概要

自編成完結 間 船舶司令部

至、宮古島上陸 第三十二軍

自宮古島上陸 第三十二軍

至天号作戰終結 間 臺灣軍

自天号作戰終結 間 臺灣軍

至復員完結 間 臺灣軍

四、作戰準備關係

一、作戰計畫、概要

戰闘方針 敵機新部隊並輸送船団、泊地ニ侵入スルヤ闇夜ヲ

利用シ直ニ舟艇ニ依ルル進攻裏ニヨリ一撃ニ敵

ヲ撃滅スルニアリ

二、陣地ノ状況 昭和一九年九月五日

起工時期 昭和一九年九月中旬 完 昭和一十九年三月中旬

百社爆彈ニ研工得ル程度 幸陣地ハ海上校庭基地第四大隊ニ於テ担任セリ

3. 作戰準備ニ関スル主要ナル命令ノ内容
津羅失陥後同地ニ於ケル米軍、一部宮古島方面ニ
向ケ南下中ト、友軍飛行機ノ情報ニ基キ師団
ヨリ速ニ甲号ヲ戰備ニ移行シ得ル準備ヲ完了ス
バ、レトノ命令ヲ受ケ、急水攻撃ヲ準備シ、命令ヲ下達
セル外特記スベキ事項ナシ

又軍需品ノ集積状況
昭和十九年十一月中旬、舟艇百隻、其他被服糧秣
ヲ受領、宮古島ニ上陸セルトキハ約半数敵機ノタメ海没セリ
舟艇ハ宮古島平良町北側陣地洞窟ニ隠匿セリ
自活ハ一人約一反程度、畑ヲ耕作主ニ芋ヲ植付ケ
略、自活態勢完備ニアリ

小豆島並ニ幸ノ浦ニテ約四ヶ月間舟艇ニヨル襲撃
訓練ヲ實施
宮古島ニ上陸後ハ絶対秘密トシテ襲撃訓練ハ實施
セズ、夜間ヲ利用シ急水訓練並ニ舟艇ノ機關整
備ヲ實施ス

五、戰闘状況

1. 参加セル主要ナル作戰ノ概要

自昭和二十年三月二十五日 間天號作戰ニ参加
至 六月二十日

2. 機動部隊未襲撃状況

津羅作戰中ハ絶エス周辺ニ敵機動部隊遊戈シ
進行機ニ依ル攻撃ヲ受ケ

3. 敵機未襲撃状況

(一) 南西諸島空襲概略

一回、未襲機数 三〇―四〇

攻撃目標 在泊船舶ノ三

(二) 天号作戦概略

一回、未襲機数八一―九〇

襲撃ナルトキハ一日三回程度 熾ナルトキハ天明ヨリ黄昏迄

上空ニ乱舞シ 返覆執拗ナル攻撃ヲ實施セリ

夜間ハ比較的緩慢ナリ

攻撃目標ハ主トシテ飛行場ニシテ他ハ沿岸陣地並ニ

主要村落ナリ

機種ハグラマン・コルセヤー・アベンギャーヲ主トシ陸上機

ハ未襲未セス

三月二十五日ヨリ開始セラレタル沖繩作戦ヨリ終ラズマデ三ヶ

月間ハ文字通り殆ト一日ノ休止ナク連日未襲未セリ

ニシテ間米軍ト交替セル英軍機ハ未襲未スロシトフアイヤ

ニシテ機数ハ一日三機程度一日一機程度

不時着者ナシ

不詳者ナシ

6. 敵浮慮数

ナシ

六. 給養衛生

穀類不足ニ伴ヒ甚諸給養ヲ行フ

マツリヤ甚患養数名發生セルモ殆ト治愈セリ

七. 終戦ヨリ歸還迄ノ行動ノ概要

自昭和二十年八月十五日 間復員待機及現地自活

至 今 十月三十一日